

## お詫びと訂正

第22号の教育に関しての特集の中で、公立の小学校から中学校へと進学する子どもの数を三分の一強と書いてしまいましたが、正しくは三分の二強になります。お詫びをして訂正させていただきます。



## 就任のご報告「市川獣医師会の顧問」になりました

この度、市川市と浦安市の獣医師の皆さんの中で、結成され活動されている「市川獣医師会」の顧問としてご協力させていただくことになりました。今までの活動の中で関連する部分も多くあり、精一杯頑張りたいと思っております。よろしくお願いたします。

## 稲葉健二のコラム

新聞の報道などで多くの反響がありました。市川市が今年度からは始める「給食申込制」について書かせていただきます。この議会でも多くの方が一般質問でこのことに触れていました。なぜこのような制度が必要になったのか、このような制度をしなければだめなのか考えさせていただきました。もとにあるものは給食費の滞納問題です。他市に比べれば多い少ないの違いはありますが課題は同じです。現在市川市は滞納者が小中学校で161名約333万円と報告されています。その内、規範意識が原因とされているケースが5割強と言われています。本当に生活が苦しい家庭には支援制度がありますし、理由や内容によっては完全にフォローできるようになっています。未納の方たちの意見のなかには、「義務教育だから給食費も負担しろ」「申し込んだわけではないから払わない」というものもあります。この未納給食費を集金するのは現在クラス担任が行っています。本来の担任の業務ではありませんが、代行する人間もいないで行っています。

浦安市では滞納の集金を委託している部分もありますが、経費的に差し引いて合わないのが現状です。給食制度は、全ての子ども達が平等に、栄養も考えたものを提供する大切なものですし、集団教育をおくる上で、クラスで一緒に食事をし、配膳や片付けも覚えてゆく事も勉強のひとつではないでしょうか。

ここで確認をしておきますが、給食費とは食材費なのです。人件費や水道光熱費や設備費や消耗品費など含めて全て市川市が提供をしています。保護者や先生達から預かった給食費は全て材料を購入する費用になります。だから、滞納の子どもがでると食材費を削って調整することになり、他の子ども達に迷惑がかかることになります。親の勝手な考えのために、子どもに対して、給食費を払ってないから食べさせないということではできません。一部の身勝手な保護者の考え方で他の子どもたちに迷惑をかけないことをお願いしたいと思っています。



## 市川市の情報コーナー

### 八幡小学校に外トイレができました。

市川市立八幡小学校に外トイレができました。校庭での体育のときなどにも、いちいち靴をぬいでトイレに行かないでもよくなりました。体育館の裏から入ります。多くの方たちの長年の気持ちが叶いました。



### 犬猫慰霊碑の改修工事が終わりました。

市川市の大町にある犬猫慰霊碑の改修工事が終わりました。今まで、お願いをして、水道の設置や、花を活ける物を工夫していただいていたのですが、今回は慰霊碑の周りに白い玉砂利を敷いていただきました。きれいです。



ご意見・ご要望等お気軽にどうぞ！



市川市議会議員

稲葉健二の  
一言メッセージ

No.23

平成20年4月20日発行  
稲葉健二事務所  
272-0021  
市川市八幡2-2-10  
TEL 047-333-1783  
FAX 047-334-1990  
URL www.inaba-kenji.jp  
MAIL kenjiinaba@aol.com

## 救急の現状と課題です。

市川市消防局の救急出場件数は、平成18年19,635件でした。夜間なども含めて加入電話による病院の紹介件数は約5,000件です。また、市川市急病診療所の受診患者件数は、平成18年度で16,369件（日数365日）、市川市休日急病等歯科診療所の利用者は平成18年度で714件（診療日数73日）です。今、救急車の適正利用が問題となったり、かかりつけのお医者さんや薬局の必要性が課題となっています。というのは、市川市には3次救急の医療機関がないので、船橋市、浦安市、松戸市などの医療センターや病院と提携しています。どこでも、医師不足や診察科目の減少など課題も多くあります。浦安市川市民病院（旧葛南病院）も毎年数億円の赤字を出しており、今後数年間で公設から民営化に向けて進むことになりました。今、市民のモラルの低下が課題となり、本当に救急車が必要ではなく、タクシー代わりに利用する方、本来なら急病診療所に来るような症状ではない方など様々です。協力をしてくださっている医師会、歯科医師会、薬剤師会の方たちも困っている部分もあるそうです。

しかし、核家族化が進む中、昔は同居の祖父母に聞いたり家族と相談したりというようなかたちが少なくなっている状況ではしかたのない部分もありますが、そのおかげで本当に治療が必要な方たちが受けられなかったり、遅れたりでは問題ではないでしょうか？今回の私の質問は以前から提案していた、コールセンターの完備です。まず、1つの電話番号で24時間病院の紹介が受けれることです。ホームページなどでも紹介していますが、緊急の際に119番のように安心してかけられるところが必要ではないでしょうか。そしてそのワンコール電話の段階が完備された時、次は電話での初期医療相談などが受けれる形に進むことを提案いたしました。具合の悪い状況などを電話で、医師や専門家の方に相談して、すぐ病院が必要かどうか、また、どのように初期対処すればよいかなどを聞けるコールセンターをお願いしました。ここで大事なことは市民の利便性は確実に向上しますが、モラルなどの部分は市民自身で考えてもらうことです。救急車や急病診療所の適正利用を皆さんで考え協力していかないと、皆さんが本当に必要な時にかかれなような事態になってしまいます。

ぜひ、ご協力をお願いいたします。



大洲にある市川市急病診療所

# 平成20年2月定例議会報告

平成20年2月定例議会が、2月18日～3月24日まで開催されました。下記の内容で一般質問を行い、真摯な御答弁をいただきました。質問の要旨を掲載いたしました。詳しくは、市議会のいちかわインターネット放送局で録画放送をご覧ください。

市川市議会→録画放送→3月18日へとお進み下さい。直接は[http://ibs.city.ichikawa.chiba.jp/ibswb/control.cgi?form\\_action=view\\_prefectural&key=239536606](http://ibs.city.ichikawa.chiba.jp/ibswb/control.cgi?form_action=view_prefectural&key=239536606)

## 一般質問の主な内容は、

- WHO健康都市宣言をした、市川市の禁煙施策について
  - ① 公共施設の禁煙・分煙の状況と今後の方向性について
  - ② 教育関係施設の禁煙・分煙状況と今後の方向性について
  - ③ 禁煙教育、禁煙支援の今後の方向性と考え方について
  - ④ 第3回健康都市連合国際大会に向けての方向性と目標について

WHO健康都市連合国内加盟市を全て視察させていただき、いろいろな施策などでも勉強になりました。その中で禁煙施策は、連合加盟市の中でも規模の大きい市川市は進みづらい状況にありました。特に教育関係の施設は、全ての市において敷地内禁煙でありました。また、今年10月23日～26日までの間で開催される表記の国際大会に向けて施策の整備をどのように考えるのか質問させていただきました。

ご答弁は、現在の禁煙・分煙状況、また、禁煙に対する協力なども含めて、前向きに取り組んで行くとのことでした。そして、特筆することには、平成20年9月から市川市中の小・中学校が敷地内禁煙になるとのことです。現在市内の県立高校は全て敷地内禁煙ですので、これにより、公立の小学校・中学校・高等学校は敷地内禁煙になるということです。大きな一歩になったと思っていますし、子ども達に喫煙防止教育も併せて進めて行くことも大事であると思います。



- 保健センター、消防局、急病診療所のテレホンサービスについて
  - ① 病院の案内や急病診療所の案内について、以前の質問から後の現在の状況と今後の方向性について
  - ② 以前提案させていただいた、「安心急病ワンストップコールサービス」などの名称で、総合的な24時間対応のテレホンサービスの考え方と方向性について

現在市川市の病院案内などは、保健センターや急病診療所や消防局などの連携により24時間対応しています。特集でも書きましたが、急病の場合、初期治療の方から3次救急の必要な方まで様々です。かかつけのお医者さんや薬局がない方はどこの病院にかかれば良いのかわからない時に病院案内に頼ったりします。現在は時間帯によっては2回留守電を聞いてから3回目のコールでつながる方もいるので、1つの番号にして転送するなどして、利便性を図れないか、また、将来電話で病院案内はもとより医療相談もできるシステムを構築できないかお聞きしました。

ご答弁は、20年度中に1つの番号によるサービスの提供ができるようにしたいということ、そして、その翌年度を目指して、24時間医師や専門家が対応できるテレホンサービスを構築したいとのことでした。市民にとって利便性の向上と病氣や相談などに対するの不安解消に向けて大きな道作りになることと期待しています。



- 本八幡A地区市街地再開発事業について
  - ① 補助金を含めた、資金計画について
  - ② 公共性を考えた、地域環境の整備の考え方と計画について

本八幡北口の法定再開発についてお聞きしました。この再開発のことは過去に何回も質問させていただいています。今までの再開発と違う部分や公共的な貢献度の部分や利便性も含めた地域や市川市のメリットなどお聞きしました。また、補助金を含めた事業資金計画も当初のかたちや金額に動きがあったことを踏まえてお聞きしました。

ご答弁は、千葉県補助金も復活し、今後の資金計画や国、県、市の補助金の割合などもお答えいただきました。メリットは地域に、災害などの避難地を確保できること、国道14号線と中央通の交差点は、市川方面からきた場合の左折レーンが確保され、行徳街道との交差点は中山方面からの右折レーンが確保され渋滞解消に繋がります。中央通りもセットバックすることにより、曾谷方面からの県道に右折レーンができ、舗道空間も広く整備されます。災害に強い街づくりや京成線から都営地下鉄へつながる導線の確保やバリアフリー化も完成されますし、1000台以上収容可能な駐輪場の整備など多くの説明をいただきました。

未来の市川市ふさわしい再開発になるように、現在の地域状況の大きな改善に向けて見守って行きたいと思っています。



- 不登校児童・生徒について
  - ① 現在の状況と対応について
  - ② 民間の協力を得た施策などの考え方について

現在市川市の小、中学校には多くの不登校児童・生徒がおります。原因は様々であり、不登校の形態も違ってきます。子どもの気持ちを考えると胸が痛みます。その子達は市川市が行っている施策や対応により改善された子もいますが、民間で活動している団体などのところで居場所や指導を受けている子もおります。市が把握している状況や情報と民間が持っている情報や改善事例などを共有することにより新しい施策を生み出せないかお聞きしました。

ご答弁は、市川市としてもいろいろな施策や対応を実施しているが、民間で行われている、いろいろな活動も大変重要なことと認識をしている。機会があれば、教育委員会としても個人情報や考慮の上、でき得るかたちで子ども達のために考えて行きたいとのことでした。

時代とともに子ども達の考え方や、環境も変わっていきます。どのかたちがその子どもに合うかはわからないので選択肢は広げてあげたいと思っています。現場の課題を少しでも解決に結び付けたいと思っています。

